

令和6年度 支援教育部の支援計画

支援教育部

(1) 生徒支援

時期	名称	対象者・内容		
入学前	入学前相談	希望者 学校生活での配慮・障害特性など		
在学時	全生 徒	ソーシャル・スキル・トレーニング (SST) 月目標掲示	生徒全員に対し、月目標の達成を呼びかけ	
	徒	教育相談週間 (年2回) 5/13(月)～16(木)、20(月) 11/11(月)～15(金) (5/20, 11/15を除いて45分授業)	担任が学級の生徒全員と面談 →必要に応じ、職員は情報共有	
		総合的な探究の時間 「心を耕す」	支援教育部が資料提供 年次の担当者が授業実施	
		アセス 5月、10月	学校適応感の調査	
	一部生 徒	一	スクールカウンセラーとの面談	希望者
			医療機関への情報提供	該当者 学校生活の様子について情報提供
			外部機関との連携 ★SSWとの連携	希望者・該当者 児童相談所、警察、市町村役場、相談事業所等
			問題行動発生時の生徒支援	該当者 障害特性に配慮した支援、再発防止策等
			教育相談 (随時)	希望者
	卒業時	相談機関の資料提供		

(2) 保護者支援

入学前相談	希望者
スクールカウンセラーとの面談	希望者
保護者座談会	希望者

(3) 職員対象

啓発活動	学習のユニバーサルデザイン (UDL) 月目標掲示 ※全職員が取り組む。
情報共有	生徒理解の会 (年3回) 4/5(金)、5/29(水)*45分授業、8/23(金) ※生徒全員の情報を全職員が共有 第2回はアセスの結果を中心に個と集団の特徴を共有する。
	アセス (学校適応感の調査・年3回) ※結果から生徒の内面を想像する一次資料とする。
職員研修	特別支援教育職員研修会 (年2回) ※アセスを中心に生徒 (個・集団) の理解の仕方を学ぶ。 事例検討会 ※生徒理解の会、アセスの資料からアセスメント→仮設→支援策をつくる演習を通して生徒理解を深め、組織的対応に繋げる。 ケース会議…アドバイザー：相談支援事業所、医療機関等
資料提供	障がいの理解 アセスによる生徒理解、学級経営 学習のユニバーサルデザイン (UDL) ソーシャル・スキル・トレーニング (SST) アサーション など

(4) 外部機関との連携

中学校訪問	入試後、合格者の出身中学校から情報収集 (中・高連携シート)
保護者座談会	自立・就労相談会参加等の保護者を対象に座談会を実施 アドバイザー：障がい者就業・生活支援センター 地域の相談支援事業所・活性化相談員 等
ケース会議	困難なケースについて、学校職員および外部機関で事例検討 生徒の住む地域の相談支援事業所、医療機関 など ★今年度、月1回 SSW の派遣あり